

令和4年度学校評価年間

自己評価結果等

本年度の 重点目標	◎ これからの社会において、新たな価値を創造できるリーダーの育成 1 リーダーにふさわしい資質・能力の育成 ……「知・徳・体」の調和のとれた人間力の育成 2 学びの工夫 ……知識・技能の習得、探究的な学び、対話的・協働的な学び 3 常に挑戦し、主体的に学び続ける場の創出 ……学びに向かう力・自己肯定感を高める指導 4 3年間を通したきめ細かな進路指導 5 理数科プログラムの開発と実施 6 いじめの撲滅 7 効果的な働き方の工夫		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
リーダーにふさわしい資質・能力の育成 （総務） （教務） （生徒指導） （特別活動） （各学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い視野の育成 ・ 礼節や品性、品格を身に付けさせる式典の運営 ・ リーダーとしての資質を育むことができる北高祭運営の工夫 ・ 生徒議会の運営の工夫 ・ 規範意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業をはじめ、様々な活動において広い視野を育てる。 ・ 感染症対策で集合が困難な場合にもICTを活用して品格のある式典等の運営を目指す。 ・ 北高祭を生徒自身が企画・運営できるように工夫し、各団のリーダーを中心に挑戦することを推奨する。 ・ 学校の発展に寄与できる生徒議会の運営を目指す。 ・ 集団において自己のすべきことを把握し、それを実施するとともに、周囲への配慮のできる生徒の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット使用により従来とは異なる活動を行い、新たな視点を養うことができた。（1年生） （課題） ・ タブレットの使用マナーについて ・ ズームやチームズを使った映像配信と従来の形での式典を状況に応じて使い分けることができた。 ・ コロナ渦で十分な引き継ぎができなかった状況でありながら、自分たちで工夫・協力して北高祭を成功させることができた。 ・ 校則の見直しを生徒主体で行い、議会を通して学校側と話し合う形を作ることができた。
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学びの工夫 （教務） （図書情報） （各学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の実施・運用、評価方法の研究と授業改善 ・ 探究的な学びの推進 ・ 生徒用タブレットの導入支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の導入に合わせて、身に付けるべき力を整理し、そのための授業の工夫を推進する。 ・ 授業に体験的・課題探究的な内容を取り入れる。 ・ PA・理数探究で探究のスキルを身に付けさせる。 ・ 授業アンケートを定期的実施し、教員の指導力向上につなげる。 ・ 1人1台タブレット導入に合わせたネットワーク等の整備とタブレットを活用した授業改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価に基づいて授業内容や評価基準を綿密に計画し、適切に評価できるように進めることができた。 （課題） 考査以外の評価における基準の明確化と、生徒の実態に合わせた柔軟な評価。 ・ 理数科における教育プログラムを充実させることができた。 （課題） ・ 普通科へのフィードバック（PAなど） ・ 授業アンケートの活用が進まなかった。 （課題） ・ 授業アンケートを適切に行う体制作り ・ タブレット導入により、理数科だけでなく普通科の総合で活用するなど、授業形態の幅が広がった。 （課題） ・ タブレット使用のマナー

<p>常に挑戦し、主体的に学び続ける場の創出 (図書情報) (特別活動) (各学年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的な学びを行うための授業計画の推進 ビブリオバトルの推進 リーダーとしての資質を育むことができる北高祭運営の工夫 生徒議会の運営の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標を明確にして目標達成に向けて学ばせる。 図書委員を中心とした生徒主体のビブリオバトルを開催する。 北高祭を生徒自身が企画・運営できるように工夫し、各団のリーダーを中心に挑戦することを推奨する。 学校の発展に寄与できる生徒議会の運営を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 理数科における進路指導計画の作成など理数科の進路指導は充実した。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生の早朝課外について(次年度改善予定) ビブリオバトルでは全国大会出場者を出し注目を集めた。 北高祭においてリーダーを中心にアフターコロナの学校祭への道筋を作ることができた。 生徒からの要望を学校側に伝え、議会を通して議論する基板ができた。
<p>3年間を通したきめ細かな進路指導 (進路指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理数科の進路指導 生徒の進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 専門学科としての理数科の進路指導計画を検討し、作成する。 キャリア教育を充実させ、適切な情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 理数教育推進部が主体となって本校の理数科の基板を作ることができた。 キャリア講演会の実施。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> 講師の人選(より現状の生徒にマッチした人材) 理数科におけるノウハウを普通科へ還元する
<p>理数科プログラムの開発と実施 (理数教育推進)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理数教育プログラムの立案と実践及びその成果の広報 	<ul style="list-style-type: none"> 「探究的な学び」、「体験的な学び」、「グローバルな視点」を柱とした理数教育プログラムを実施するとともに、その成果をHP等で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> コスモ、理数科における体験授業や外部講師による特別授業など充実した内容となった。また、HPにも毎回情報発信を行った。
<p>いじめの撲滅 (生徒指導) (保健環境) (各学年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ防止基本方針に則した、いじめの未然防止と早期発見に係る取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートや面談等から得た情報をもとに、迅速で丁寧な対応をする。 情報モラルITを行い、情報モラルに関する意識(特にネットいじめ)を高めさせる。 人権講話を通じて生徒に人権に対する意識を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査や生徒面談の充実により多くの問題を早期発見し対処することができた。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> 情報モラルに関する問題行動への対処 不登校、多遅刻生徒が増加しているため対応策を考えていく必要あり
<p>効果的な働き方の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員が常に元気な姿で生徒の前に立てるような業務の在り方等の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間等の状況記録を活用した教職員の時間外労働の把握とそれを踏まえた業務の適正化を行う。 ストレスチェック等を活用して教職員のメンタルヘルスに留意し、問題がある場合には迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間については、個別に改善を促しているものの、全体としては残業が減っていない。 メンタルヘルスに関する問題については、早期に対応している。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> 勤務時間内に業務を終わらせるための意識を植え付けたい。 対人関係が原因のストレスが多い。
<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> リーダーにふさわしい資質・能力の育成について 知識・技能の習得や探究的な学び、対話的・協働的な学び等の実践について 常に挑戦し、主体的に学び続ける場の創出について 理数科の進路指導計画及び進路意識の向上について 理数科の教育活動について いじめの未然防止と早期発見について 教職員の多忙化の改善について 		

学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 リーダーにふさわしい資質・能力の育成について 2 知識・技能の習得や探究的な学び、対話的・協働的な学び等の実践について 3 常に挑戦し、主体的に学び続ける場の創出について 4 理数科の進路指導計画及び進路意識の向上について 5 理数科の教育活動について 6 いじめの未然防止と早期発見について 7 教職員の多忙化の改善について
<p>自己評価結果について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分で考えて行動できる生徒が多い。 2 タブレットの使用に関して、まだまだ学校全体として取り組めていない。 3 部活動などでは主体的に活動し、実績を上げることができた。 5 (1) 理数科の課題研究に関する準備時間が足りない。 (2) 理数科教育プログラムが生徒にとって、少し飽和状態になっていないか。 6 メンタルヘルスに関わる問題に、スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターとともに連携して取り組んだ。 7 時間外労働の解消を強く求めすぎると、持ち帰り残業が増えるだけである。
<p>今後の改善方策について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2 (1) 小中学校では、スクールタクトを使ったタブレット学習が広がっているので、高校でも使用頻度を増やす。 (2) タブレット使用に関するマナー指導を生徒対象に行う。 (3) 教員のタブレット使用スキルを高める研修を行う。 3 普通科の総合的な学習では、プレゼンスキルを磨く時間を作ると良い。 5 理数科のさらなる飛躍のため、自分の興味関心があるものをさらに分化して選択できるプログラムを作っていって欲しい。(少人数講座の充実) 6 不登校、メンタル不調の生徒への対応をさらに充実させる。特別支援コーディネーターと担任の連携を強化する。 7 効率よく業務をこなし、極力残業せずすむようにベテランの先生から若手の先生に助言してもらう。
<p>その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した活動にも力を入れる必要がある。 ・メンタルヘルスに起因する問題には、専門家の力を借りつつ、チームとして対応し、孤立しないようにする。 ・教職員の働き方改革を進めることが、教職員のメンタル改善にもつながる。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員 4 名と保護者代表 (PTA 会長) 1 名 ・評価時期・・・令和 5 年 3 月 3 日